

# 大阪医科大学 仁泉会ニュース

仁泉会ニュース 第51巻第3号

発行所  
〒569-8686 高槻市大学町 2-7

電話 FAX  
072-682-6166 072-682-6636

発行者 発行部数  
安藤嗣彦 6,200部

URL  
<http://www.jinsenkai.net>

薫風さわやか

## 100% 手作りのお世話



親御様のためのセミナー  
お子様の結婚を考える  
お子様のご結婚について  
お悩みはございませんか？

毎月開催  
**無料**  
要予約

### 結婚物語 魔法の杖

会員様の希望を叶えること、これは私たちアドバイザーにとって至上命令です。でも“希望”と言ってもそれは絶対なのか単なる期待なのか、思惑なのか純なものなのか、判断はとても難しいものです。ともすれば…

→ 続きはWebで **Em Road 結婚**

## Marriage Road 結婚

Em Road はここが違います

- 1 成婚率の高さ
- 2 質の高い会員層
- 3 専任アドバイザーによる一貫したお世話
- 4 自社会員のみ構成
- 5 格式あるお見合いパーティー
- 6 安心の均一料金システム



**0120-4122-46**

10:00~18:00  
水曜定休

資料  
無料

- ドクターズコース
- エグゼクティブコース
- スタンダードコース
- シニアズコース

令和2年度総会の委任状の  
送付をお願いいたします





学校法人大阪医科薬科大学

# 大阪医科大学

## 創立100周年

### 記念事業募金

#### — 病院新本館建築 —



文字通り、ゼロからの出発  
何もない更地に、学舎をつくる。重機などを満足に調達できない中、多くの作業工程は学生と職員による“手作り”。その姿は“人間の手を介した医療”の象徴のようにも映ります。

#### since 1927 OMC History

1926 大正15年	大阪高等医学専門学校設立認可願提出
1927 昭和2年	財団法人大阪高等医学専門学校設置認可 大阪高等医学専門学校開校認可(修業年限5年)
1929 昭和4年	大阪高等医学専門学校附属看護婦学校設立認可
1930 昭和5年	本館、解剖館、別館、附属病院、臨床講堂竣工 三島病院(附属病院)開院
1935 昭和10年	本館屋上塔に大時計を設置
1941 昭和16年	新講堂と生理学実習室竣工
1946 昭和21年	大阪医科大学設置認可(旧制大学) 大阪医科大学 予科設置 医学部開学認可
1948 昭和23年	附属看護婦学校(新制)開校
1950 昭和25年	学校法人大阪医科大学認可(組織変更による)
1951 昭和26年	学校法人高槻高等学校認可 附属看護婦学校(新制度乙種)設置認可
1952 昭和27年	大阪医科大学設置認可(新制大学)現在に至る 大阪高等医学専門学校 学位規程制定認可
1956 昭和31年	大阪医科大学大学院医学研究科設置認可
1959 昭和34年	大阪医科大学進学課程設置認可
1965 昭和40年	京都大学化学研究所跡土地建物と等価交換 講義実習棟竣工
1975 昭和50年	創立50周年記念式典開催
1977 昭和52年	大阪医科大学附属看護専門学校設置認可
1978 昭和53年	体育館竣工
1979 昭和54年	大阪医科大学附属看護専門学校3年課程(全日制)設置認可
1982 昭和57年	総合研究棟竣工
1990 平成2年	特定機能病院承認
1994 平成6年	本館・図書館棟竣工
1997 平成9年	創立70周年記念式典開催

2003 平成15年	別館が国の有形文化財に登録
2005 平成17年	大阪医科大学附属看護専門学校新校舎竣工 病院7号館竣工 新講義実習棟竣工
2006 平成18年	歴史資料館設置
2007 平成19年	創立80周年
2009 平成21年	大阪医科大学健康科学クリニック開設 大阪医科大学看護学部設置認可 大阪医科大学附属看護専門学校開校 大阪医科大学大学院看護学研究科設置認可
2012 平成24年	学校法人大阪医科大学と学校法人高槻高等学校の法人合併
2013 平成25年	大阪医科大学訪問看護ステーション開設
2014 平成26年	大阪医科大学三島南病院開設
2015 平成27年	中央手術棟竣工
2016 平成28年	学校法人大阪医科大学と学校法人大阪薬科大学の法人合併
2017 平成29年	創立90周年記念式典開催
2018 平成30年	関西BNCT共同医療センター竣工

2021年4月大阪薬科大学と統合し「大阪医科薬科大学」となります。

## 2027



### ご支援のお願い

大阪医科大学は、私立大学として篤志家によって設立され、卒業生のお力添えをいただきながら、維持・運営され、成長してきた歴史があります。皆さまの温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

#### 要項

募金目的	大学病院新本館建築に係る資金の一部、並びに学生支援体制の充実を図る
募金目標額	10億円
募集期間	2018年10月～2027年3月
金額	個人 1口1万円、法人 1口10万円
顕彰	個人、法人ともに5口以上ご寄付いただいた方は、銘板にご芳名をしるし、未永く顕彰いたします
特典	個人10口以上、法人5口以上ご寄付をいただきました方は、健康科学クリニックの人間ドック(基本コース)1回分の無料健診券を進呈します。

#### 申込方法

大阪医科大学募金サイトよりお申込いただくか、募金推進本部までご連絡ください。  
<https://www.osaka-med.ac.jp/deps/bokin/>

#### 税制上の優遇措置

学校法人大阪医科薬科大学は特定公益増進法人であり、大阪医科大学に対するご寄付は所得税・法人税・相続税の税制上の優遇措置を受けることができます。また一部の自治体では、個人住民税の税額控除の対象となります。

# 目次

P4	令和2年度総会招集のご案内 令和元年度卒業証書・学位記授与式
P8	学長告辞
P9	祝辞
P11	卒業式写真館
P12	役員交代 支部だより
P13	京都仁泉会 2020年度 新春の集い 令和2年2月1日 於：京都ホテルオークラ
P15	令和2年度 仁泉会高知県支部総会及び新年会報告
P16	東雲出張版 クラス会だより
P17	第53期同窓会開催のご報告 仁泉ひろば
P18	幻の東京オリンピック 大阪医科大学星光会 第2回懇親会 2020/1/29 高槻市 料理道楽築漸にて
P20	冊子切抜 井尻慎一郎先生(学31期) 学部25期(昭和51年卒)同窓会のご案内
P21	冊子切抜 葛谷雅文先生(学32期)
P22	新聞切抜 熊野宏二先生(学39期)
P23	新聞切抜 操裕先生(学45期)
P24	データで見る大阪医大のイマドキの医学生事情
P31	アンケート結果について
P32	まんが 本部だより
P33	会員計報
P34	令和2年度大阪医科大学女性医師の会 第33回各科医療勉強会 開催中止のお知らせ
P35	編集後記

大阪医科大学学長 大槻勝紀  
一般社団法人大阪医科大学仁泉会理事長 安藤嗣彦

北岡治子(学28期) 萩原暢子(学28期)  
森本博子(学24期)  
市原直子(学24期)  
黒川四郎(医学部4回生 文芸部)

川茂聖哉(学53期)

西村保(学4期)  
乾崇樹(学50期)

大阪医科大学 IR 室特務講師 柝澤健史  
ミルクボン太(学31期)

# 令和2年度 総会招集のご案内

令和2年度の仁泉会定期総会を下記の要領にて開催致します。お手数ではございますが、**委任状（兼出欠ハガキ）を必ずご返信いただきますよう**お願い申し上げます。

会員の諸先生におかれましては新型コロナウイルス感染症の対応に追われる中、日々診療にご尽力されておられることと存じます。仁泉会は一般社団法人であり年に1度の総会開催と大阪府への開催報告が義務付けられております。令和2年度の定期総会及び評議員会をホテルグランヴィア京都にて開催するべく昨年より準備をして参りましたが、今般の事情を鑑み、本年は会場を母校に変更の上、**評議員会及び懇親会は中止**とさせていただきます、総会のみ開催とさせていただきます。

当日、多数の先生方にご出席をいただくことは難しい状況でございますので、委任状のご返信を重ねてお願い申し上げます。

※状況により延期となりました際はHPやFAX等にてご案内をさせていただきます。

大阪医科大学仁泉会理事長 安藤嗣彦

## 定期総会次第

- |                |                            |
|----------------|----------------------------|
| 1. 開会の辞        | 8. 議案                      |
| 2. 物故会員に対する黙祷  | ①令和元年度収支決算案承認を求める件<br>監査報告 |
| 3. 理事長挨拶       | ②その他                       |
| 4. 仮議長指名       | 9. その他                     |
| 5. 議長選任        | 10. 閉会の辞                   |
| 6. 議事録署名者選出    |                            |
| 7. 報告事項        |                            |
| ①令和元年度事業報告     |                            |
| ②令和2年度事業計画について |                            |
| ③令和2年度予算について   |                            |

日時：2020年5月31日(日)  
午後3時より定期総会  
会場：大阪医科大学新講義実習棟1階 P101

【お問合せ先】  
大阪医科大学仁泉会事務局  
Tel:072-682-6166 Fax:072-682-6636  
E-mail: info@jinsenkai.net

## 令和2年度 仁泉会事業計画

### 【公益目的事業】

#### 1. 学術振興研究援助事業

学術振興及び研究発展の為に、医学会及び研究会に対して助成を行う。

#### 2. 奨学金貸与事業

良医の育成を目的とした、医学部学生に対して奨学金の貸与を行う。

### 【一般事業】

#### 3. 仁泉会本部諸事業

- 1) 大阪医科大学への後援
- ① 母校の募金事業活動へ協力し、母校の発展向上に寄与する。

- ② 令和2年度卒業生の内、優秀な者に対し、理事会の議を経て、仁泉会理事長賞を授与する。
- ③ 学生の諸活動への援助を行う。
- ④ 母校の発展向上に寄与する為の支援・協力活動を推進する。
- ⑤ 母校執行部、教職員並びに学友会との連携をはかる。
- ⑥ 母校国家試験対策事業への援助を行う。

#### 2) 会員の福利厚生への支援

- ① 会員の動向把握を行い、会員慶弔時における福利厚生につとめる。
- ② 会員相互の親睦交流を深める為の活動支援を行う。

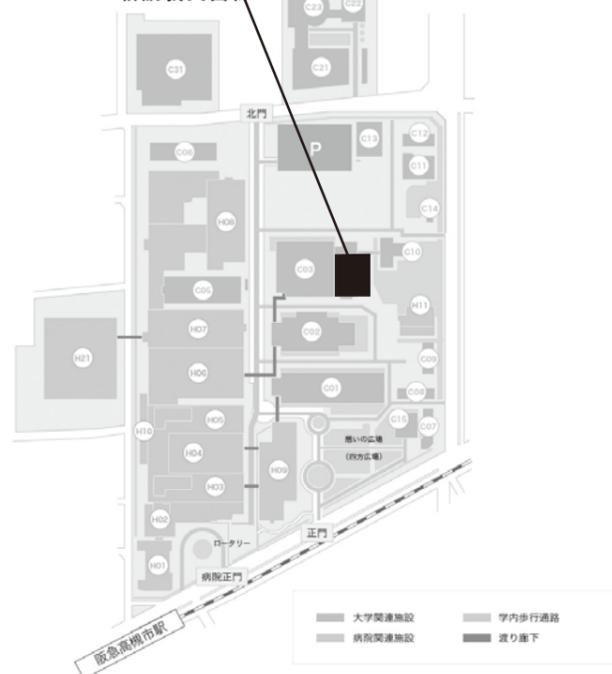
### 大阪医科大学ご案内地図



●お車でのご来場はご遠慮ください

大阪医科大学

### 新講義実習棟



●お車でのご来場はご遠慮ください

- 3) 仁泉会組織強化に関する事業  
 大阪薬科大学同窓会との情報交換と交流を行う。
- ① 支部組織強化の為の活動への支援。  
 ② 会員で構成される団体への支援。
- ③ 会費納入の理解協力を求め、納入率向上の為の広報活動を行う。  
 ④ 地区合同懇談会を開催し、組織率向上を目指す。  
 ⑤ 学生会員の加入を促し、母校の発展向上に寄与する。
- 4) 全国私立医大同窓会との連携  
 全国私立医大同窓会連絡会に参加し、私立医科大学同窓会相互の連携と情報共有を深め本会の発展向上を図る。
- 5) 大阪薬科大学同窓会との連携
- 6) 広報事業  
 ① 機関紙「仁泉会ニュース」の定期発行（学術機関誌としての内容充実）。  
 ② 電子化広報の充実拡充（仁泉会ホームページ及びフェイスブックの更新）。
- 7) 名簿事業  
 2020年版名簿を作成する。
4. その他法人の目的達成に必要な事業  
 以上

令和2年度基金会計収支予算書

(自令和2年4月1日～至令和3年3月31日) (単位 円)

	科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
収入の部	1. 基金運用収入	5,364,000	6,810,000	△ 1,446,000	
	①基金利子	10,000	10,000	0	基金運用利息
	②返還金	5,354,000	6,800,000	△ 1,446,000	奨学金返済
	2. 寄付金	10,000	10,000	0	
	3. 雑収入	10,000	10,000	0	普通預金利息
	当期収入 (A)	5,384,000	6,830,000	△ 1,446,000	
	前期繰越額	24,000,000	19,128,956	4,871,044	
合計 (B)	29,384,000	25,958,956	3,425,044		
支出の部	1. 事業費	4,400,000	5,000,000	△ 600,000	
	①研究助成費	100,000	100,000	0	
	②研究奨励費	100,000	100,000	0	
	③奨学費	4,200,000	4,800,000	△ 600,000	7名程度
	2. 管理費	50,000	50,000	0	
	①雑費	20,000	20,000	0	口座引落手数料
	②租税公課	30,000	30,000	0	
	3. 繰出金	2,000,000	2,000,000	0	
	4. 予備費	22,934,000	18,908,956	4,025,044	
	当期支出 (C)	29,384,000	25,958,956	3,425,044	
	収支差額 (A)-(C)	△ 24,000,000	△ 19,128,956	△ 4,871,044	
次期繰越 (B)-(C)	—	—	—		

令和2年度一般会計収支予算書

(自令和2年4月1日～至令和3年3月31日) (単位 円)

	科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
収入の部	1. 入会金	2,000,000	2,000,000	0	
	2. 会費	25,000,000	25,000,000	0	
	3. 学生会費	1,800,000	1,800,000	1,800,000	学生会員会費
	4. 寄付金	10,000	10,000	0	
	5. 雑収入	5,000,000	3,000,000	2,000,000	広告/預金利息等
	6. 編入金	2,000,000	2,000,000	0	
	当期収入 (A)	35,810,000	33,810,000	2,000,000	
	前期繰越額	23,959,000	16,906,848	7,052,152	
合計 (B)	59,769,000	50,716,848	9,052,152		
支出の部	1. 事業費	21,100,000	18,600,000	2,500,000	
	①会報費	10,000,000	10,000,000	0	会報誌発行/発送
	②学術費	2,500,000	1,000,000	1,500,000	学会支援
	③学生後援費	1,000,000	1,000,000	0	学園祭支援等
	④記念事業費	200,000	200,000	0	
	⑤福利厚生費	100,000	100,000	0	
	⑥慶弔費	800,000	800,000	0	供花料/生花代
	⑦国家試験対策費	0	500,000	△ 500,000	既卒者支援
	⑧名簿作成費	6,500,000	5,000,000	1,500,000	
	2. 管理費	17,800,000	17,750,000	50,000	総会/合同支部会/理事会他
	①会議費	2,000,000	2,000,000	0	
	②給料手当	7,000,000	7,000,000	0	事務員3名
	③旅費	1,500,000	1,500,000	0	理事会、支部会出席他
	④通信費	400,000	400,000	0	切手・電話・電報料
	⑤備品費	200,000	200,000	0	
	⑥消耗品費	350,000	350,000	0	
	⑦会費徴収費	350,000	350,000	0	
	⑧社会保険料	900,000	850,000	50,000	
	⑨交際費	500,000	500,000	0	支部会賛助金他
	⑩諸謝料	1,300,000	1,300,000	0	監査・弁護士顧問料
⑪雑費	500,000	500,000	0		
⑫事務局費	600,000	600,000	0	事務室賃借料	
⑬租税公課	1,200,000	1,200,000	0	消費税他	
⑭積立金	1,000,000	1,000,000	0	周年事業準備他	
3. 予備費	20,869,000	14,366,848	6,502,152		
当期支出 (C)	59,769,000	50,716,848	9,052,152		
収支差額 (A)-(C)	△ 23,959,000	△ 16,906,848	△ 7,052,152		
次期繰越 (B)-(C)	—	—	—		

(注) 1. 借入金限度額 0円  
 2. 債務負担額 0円

# 祝・卒業

## 令和元年度 卒業証書・学位記授与式

今年の卒業式・学位記授与式は令和2年3月5日（木）に高槻現代劇場大ホールにて行われました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、座席の間隔を広くあけ、保護者の参加自粛、来賓挨拶、送辞答辞の省略など式次第の大幅な時短などの対策がとられる中、滞りなく第69回卒業式が終了しました。

本年の仁泉会理事長賞は太田紅仁香（おおた もにか）さんが受賞されました。

当日、来賓挨拶予定であった安藤理事長の挨拶及び大槻勝紀学長の当日挨拶の要旨を掲載いたします。

## 学長告辞

### 大阪医科大学学長 大槻勝紀

弥生の季節を迎え、木々のつぼみも膨らみ始めた今日この頃、本日ここに卒業式を挙行いたします。

どうぞ、ご着席ください。

大阪医科大学医学部医学科第69期生99名並びに看護学部看護学科第7期生84名の皆様、ご卒業誠におめでとうございます。大学にとりまして、卒業式は学位記を授与し、卒業生がそれを抱り所に、実社会に船出する大切な学事であります。

本日、ご列席いただきました御来賓の各位に教職員並びに卒業生を代表いたしまして、厚くお礼申し上げます。

ご存知のように安倍首相の「多数の方が集まる全国的なスポーツや文化イベントについては、今後2週間中止・延期・規模縮小等の対応を要請する」との発言がございました。これを受けて、何度か卒業式開催について関係者と検討を重ねてきました。学生、教職員から卒業式だけは何とか開催してもらいたいとの声に後押しされ、学長として規模を縮小して本日ここに卒業式を挙行することにしました。

さて諸君は令和の元号の下で卒業される最初の学生です。これまで日本の元号の多くは中国の漢籍の中から選ばれていましたが、令和は日本の古典から選定された初の元号です。令和は万葉集に収められた梅の花の序文、「時に、初春の令月にして、清く



風和らぎ（やわらぎ）…」がその典拠に基づいているとのこと。医学部においては6年間、看護学部においては4年間本学で多くの事を学ぶとともに将来に渡る友人を得、また本学の「自由な学風」の下、諸君はクラブ活動などで学生生活を enjoy されてきたと思います。初代理事長の吉津 度先生は建学の精神として「医育機関の使命は医学教育と医学研究であり、またそれらは実地の医療に活かすことで達成される。」と唱え、当時の移民団への医師派遣を目的として本学が設立されました。学歌の第5節には南溟の空遠く、アマゾンの岸の花、崑崙か、ゴビの原などと謳われ、校旗の三色、黄色は大地を、赤は太陽を、緑は海原を意味しています。本学は今でいう国際化を目指した大学であります。今後、諸君は国内外を問わず社会に貢献できる医療人として、あるいは大学に残り、教育者や研究者として活躍されることと思います。

これからの医療を考えたとき、医師、看護師、薬

剤師、技師、事務職員などが与えられた職務を個として行うだけでなく、多職種の方と連携してのチーム医療を行なうことが求められてきます。そのためには学生時代から多職種との連携教育 (Inter Professional Education: IPE) が重要になってきます。現在、本学ではカリキュラムの一部に医療人マインド、医看融合教育ゼミや専門職連携医療論を設け、大阪薬科大学の学生も参加されて IPE を実践しています。

2021年4月1日に大阪医科大学と大阪薬科大学との大学統合が予定され、「大阪医科薬科大学」として新たなスタートを切る予定です。大阪医科大学は創立93年、大阪薬科大学は創立116年と、いずれも歴史ある大学です。今後は医・薬・看の医療系総合大学として独自性を出し、発展していかなければなりません。新大学の教育は IPE を広く実践し、地域医療実習を中心に特徴づけることが重要と考えています。

もちろんチーム医療を行う上で多職種の方と連携をとるだけではだめで、「個の力」をつけなければ社会に貢献できる医療人とは言えません。しかし一生懸命努力しても必ずどこかで壁にぶち当たります。どの様にしてその壁を乗り越えていけばいいのでしょうか。そのためには、若い時にどれだけ多くの臨床経験をしてきたか、自分を感化あるいは感動させるような書物をどれだけ多く読んできたか、また日頃臨床を行う上で疑問に感じてきたことをどれだけ深く掘り下げ、長く考え続けてきたかが重要です。あまり関係ないと思っていたことが点から線となり、ある時にひらめきとなり急に視野が開けます。いったん壁を乗り越えると面白いぐらいに次から次へとアイデアが湧いてくるものです。私の好きな画家に平山郁夫画伯がいます。皆様も「シルクロード」といえば知っている方も多いことでしょう。彼は言っています。「先が見えなくても、また、目標がまだわからなくても、とにかく止まってはいけない。いつかは報われる時が来る。そう信じて歩き続ければ、人生は扉を開いてくれる。」と。このことは画家だけでなく、これから医療人として社会に踏み出されていく皆さんにとって「ぶれない自分」を作ることがとても重要だと思います。患者さんを心から癒す医療人として「ぶれない自分」を作るためには、努力や知識以外にどのような事を学んでおく必要が

あるのでしょうか。医療を志す者であれば内科医の William Osler 博士のことをご存じのことと思います。これまで Osler 博士は多くの名言を遺しています。その一つに `Medicine should begin with the patient, continue with the patient, and end with the patient` 「患者さんの話に耳を傾け、患者さんに寄り添い患者さんから学ぶ姿勢が大切である」と言っています。卒業生諸君が医療人として他者を思いやり利他の心で誠実に患者さんに接していく医療人になっていただければと願う次第です。

最後に、諸君の卒業をお祝いし、門出の言葉として論語の有名な一節「子日わく、之を知る者は、之を好む者に如かず、之を好む者は、之を楽しむ者に如かず。」を贈ります。医学研究や医療の実践において知っているだけではアマチュア、好きなだけではセミプロ、趣味のように没頭し楽しめるようになればプロと言えるかもしれません。諸君が教育、研究や臨床に対して楽しんで向き合っている医療人にならんことを祈念して学長の告辞といたします。

## 祝辞

### 一般社団法人大阪医科大学仁泉会 理事長 安藤嗣彦

第69期医学部卒業生の皆様この度はご卒業まことにおめでとうございます。また本日ご臨席いただいております、ご両親をはじめご家族の皆様には感慨ひとしおのことと存じます。心からお慶び申し上げます。さらに本日まで卒業生をご指導され、薫陶を賜りました本学教職員並びに関係各位に対しましても、お祝いとともに厚く御礼申し上げます。

医学部卒業生の諸君は本日から、一般社団法人大阪医科大学仁泉会（すなわち同窓会）会員であります。本法人は1927年創立の大阪高等医学専門学校及び大阪医科大学卒業生で構成され医学部69期生99名を新たに加えますと、総数は9673名となり、現在も各地で活躍中の会員は5639名を数えます。

さて、本日めでたく卒業される諸君の近々の最大の試練は医師国家試験の可否の判定です。発表までは心穏やかに過ごせないとは思いますが、仁泉会員は全員の合格を切に祈っています。



国家試験合格の暁には、前期、後期の研修制度に基づき、医師としての厳しい修練が始まります。本学以外の他大学や研修病院で研修される卒業生は、再び本学での診療や研究に携わる機会は多くありません。しかしながら本学か否かを問わず、この6年間大阪医科大学で学び親交を深めた同級生や教職員の方々との思い出はいつまでも忘れる事はありません。

この学生時代の思い出こそが、母校愛を育む最も大きな要素です。

諸君は学歌に謡われた建学の精神をもう一度噛みしめ、母校愛を胸に抱きながら医療従事者としての道を研鑽されることを期待します。

仁泉会は、学生諸君への事業として奨学金貸与事業以外にも、学園祭、西医体への援助、優秀な卒業生への仁泉会理事長賞、仁泉会報の発送や学生生活のセミナー等の事業を行っていますが、卒業後も4年に1度の名簿の作成発送、会員主催の学会への援助、全国支部組織の強化事業等、多岐に及びます。これらの事業は全て会員の年会費で運営されています。これらの事業は他の同様の私立医科大学の同窓会からも絶賛されています。諸君達には卒業後はこの事業の継続に協力をいただくよう切にお願いいたします。

1年後には大阪医科大学と大阪薬科大学との完全統合が実現します。当大学が日本でも有数の医療系総合大学となるには、両大学の同窓会が密に交流することも大切であることを理解して下さい。

最後に、本日卒業の諸君の前途を祝福いたすと共に御出席の御父兄、教職員の皆様のご多幸を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。



## 卒業式写真館



# 祝合格率 100% ! 第 114 回医師国家試験

本年の医師国家試験は新卒生、既卒生ともに  
合格率 100%の快挙を達成されました。  
誠におめでとうございます。



### 役員交代

〔大阪医科大学支部長〕

前支部長 米田 博先生 (学 28 期)



新支部長 南 敏明先生 (学 36 期)

### 編集部より

#### 会費納入のお願い

年会費

令和2年度 10,000円

令和元年度 10,000円

平成30年度 10,000円

納入のご協力をよろしくお願い致します。

事務局 会計係

## 支部だより ●●●

### 京都仁泉会 2020 年度 新春の集い 令和2年2月1日 於：京都ホテルオークラ

文責／北岡治子 (学 28 期) 萩原暢子 (学 28 期)  
森本博子 (学 24 期)

令和2年2月1日(土)に今年度の新しい企画として「京都仁泉会2020年新春の集い」が開催されました。参加者は26名で、いつもと違った着席ビュッフェという形式で行われました。

岩野正宏先生(学35期)の司会で、まず、松本恒司会長(学26期)から挨拶があり、講演に先立ち内田 實先生(学12期)が乾杯の音頭を取られ、30年代の小児科の思い出話に花を咲かせられました。その後、ミニレクチャーとして講演会が行われました。

今回は、大阪医科大学小児科教授にご就任され、本会会員でもある芦田 明先生(学37期)より、「急性腎不全をきたす小児急性胃腸炎」

という演題でレクチャーがありました。

講演の要旨を紹介いたします。

小児の急性胃腸炎には、ロタウイルス、エルシニア、サルモネラ、カンピロバクターなどによる様々なものがあるが、急性腎不全をきたすものは、腸管出血性大腸菌(enterohemorrhagic Escherichia coli:EHEC)に関連して発症する hemolytic uremic syndrome (HUS) である。代表的なものは、1996年の学校給食から発症した志賀毒素(ベロ毒素)産生性病原性大腸菌(STEC:Shiga toxin-producing Escherichia coli)血清型 O157 の感染による HUS で、患者数が多数であったため、これを契機にガイドラインが作成された経緯がある。

STEC 感染症の診断は、便培養をして血清型を判定するが、この菌の特徴はサルモネラが10000個単位であるのに対し、100個単位で感染・発症することである。便からの菌検出率は60~70%と頻度が高いが、培養には3~4日かかる一方、O157をはじめ血清抗 LPS 抗体の測定が可能で培養陰性例でも診断ができる。その他、早



期の診断法として、腹部超音波やCT検査における大腸壁の著明な肥厚や腫脹等の所見が有用である。そして重要なことは血清や便の十分な検体を保存して後の確定診断に役立てることである。

さて、HUSは、三主徴である微小血管症性溶血性貧血、血小板減少、急性腎障害で診断され、原因疾患は小児では90%がESTECで、経過としては血便がピークを越えて1週間後にHUSが発症し2~3週間で自然軽快する例が多いが、2011年の北陸地方を中心に発生した集団食中毒(O111)やドイツを中心とした集団発生例(O104)では、重症例の占める割合が高く注意が必要である。

治療としては、欧米では抗菌薬の投与は禁忌とされているが、日本では早期にホスミシンが投与される。そして胃腸炎の時期には血管内容量を上げる漿質液の投与が重要である。HUSに至れば溢水に注意が必要である。その他、重症例では腎代替療法や、脳炎、脳症の発症に際しては血漿交換やステロイドパルス療法が施行される。

まとめとして、HUS発症に関しては、病原因子の同定と臨床所見の特徴を捉え、重症化を阻止するように努めるべきである。

以上の講演に関して、抗菌薬、抗生物質、リコモデュリン投与やエコー所見の見方など多くの質問がなされ、わかりやすく明確にお答え頂きました。小児科領域のみでなく多くの先生方に有益な講演となりました。

講演の後は、テーブル毎にお料理が運ばれお食事をいただきながら歓談となりました。今回、お二人の若い先生方(学32、学44)の参加がありました。それぞれの先生方からの自己紹介スピーチに続いてマイクが回って各先生方の近況報告や丁度流行真っ最中の新型コロナウイルスに関する知見などの話題で盛り上がりました。

参加者

内田実・太田稔(学12) 上原従正(学14)  
勘田紘一(学15) 今村喜久子(学17)  
竹内宏一(学18) 奥村正治(学20)  
大藪博・富岡曄(学22)  
西本孝・田代博(学23) 森本博子(学24)  
浅野明美(学25) 水谷均・松本恒司(学26)  
北岡治子・萩原暢子・蘆田潔・蘆田ひろみ(学28)  
佐々木宏和(学32) 岩野正宏(学35)  
寺村和久・芦田明(学37) 柏木元実(学39)  
岡本文雄(学40) 中島久和(学44)



## 支部だより●●●●

### 令和2年度 仁泉会高知県支部総会 及び新年会報告

文責/市原直子(学24期)

令和2年2月1日(土)恒例の仁泉会高知県支部の総会・新年会が「希満里」で定刻の午後6時半より開始されました。声の調子が悪いという幹事の枝重先生(学26)に代わり川田先生(学34)が進行役となり、まず昨年亡くなられた「キャンさん」こと三宅先生(学23)を悼み黙禱、引き続き濱協会長(学11)より「令和初の新年を無事に迎えることができ、高知県支部がよくまとまっていることは喜ばしい」とのご挨拶を頂きました。が、最後に「全国の支部長で僕が最高齢、学部11期なんていない。20期~30期代になっている。だから来年は絶対に譲る」と宣言、締められました。先生のお気持ちを十分受け止めた上で、お隣の齢95歳にして未だかくしゃくとした武井先生(学3)の乾杯の音頭で今年も土佐の宴会が始まりました。

でもムードメーカーの三宅先生、土居(秀策)先生(学22)(体調不良で欠席)二人が揃わない新年会は何とも静かで落ち着かず、今後の活躍を期待して若手の竹中先生(学54)、町田先生(学56)を会の盛り上げ役に指名しました。かなり期待できそうです。次々とお料理が運ばれ飲み食いおしゃべりもたけなわ、それを機会に近況報告をしてもらいました。町田先生、そろそろお父様とご一緒の開業になりそうです。内田先生(学24)は昨年でお産を止め、数年後には閉院を考えています。正田先生(学24)、息子さんが後を継ぎ、悠々の診察。次期、郡医師会長に就任予定で、川田先生も県医師会理事決定と現在県医師会理事の刈谷先生(学22)共々、仁泉会は県医師会で活躍しています。近森先生(学21)は大病院の総帥として活躍、その上透析事業も拡張され大忙しです。枝重先生は剣道7段。より高見を目指して日々精進されています。出席の16名はみんな元気で、大正生まれの武井先生を筆頭に年に一度のこの日を満喫していました。ただ、濱協会長は土居先生の体調不良がとても気掛かりな様子でした。会長もいつの間にか85歳。我々世代には濱協



先生イコール仁泉会高知県支部であり、いつまでも元気であるものばかりに甘え切っていました。何事にもバトンタッチのタイミングはあります。来年は先生には名誉会長になって頂き、新しい会長のもと仁泉会高知県支部もちょっと若返ると思います。

若手、古手が入り乱れ、お酒がすすむ中、2時間はアツと云う間に過ぎ、名残惜しくはありますが、「来年もまた会おう」と言葉を交わし、今年も気持ちよくお開きとなりました。

- 出席者
- 学3 武井廉平先生 学11 浜脇弘暉先生
  - 学15 相当荒木京二郎先生 学21 近森正幸先生
  - 学22 刈谷隆明先生 学24 市原直子先生
  - 学24 疋田隆雄先生 学24 内田博久先生
  - 学26 枝重恭一先生 学28 高島正樹先生
  - 学30 前田 隆先生 学34 川田誠一先生
  - 学34 楠瀬幹雄先生 学45 杉田直哉先生
  - 学54 竹中英喬先生 学56 町田崇博先生

# クラス会だより

## 第53期同窓会開催のご報告

文責／川茂聖哉（学53期）

令和2年2月15日午後3時より梅田の中華料理大東洋で総勢43名で行われました。

幹事代表の藤原聡枝さん（母校産婦人科）の挨拶後、開催場所を快く提供してくれた洪里和良君の乾杯の音頭でスタートしました。

フカヒレスープなど豪華で美味しい食事に舌鼓をうちつつ、昔話に花を咲かせてしばらく歓談した後、参加者全員のスピーチで近況報告を行い、大いに盛り上がりました。

今回は子供連れの参加者が多かったため、突然腕相撲大会やモノマネ大会が始まるなど、終始賑やかな雰囲気の中、楽しいひと時を過ごすことができました。

卒業以来15年ぶりの再会もありましたが、皆さんお変わりなく、それぞれが今の人生を謳歌しているのを知ること、同窓会の楽しい一面を再認識しました。

今回、誰かがやらなければと企画してくださった幹事の皆様本当に有難うございました。そして忙しい中お集まりの皆様もお疲れ様でし



た。楽しい時間は、あっという間に終わってしまいましたが、今後は4年毎に開催することになりましたので、今後ともオリンピックイヤー53期同窓会を宜しくお願い致します。

facebookの『大阪医科大学53期』グループやLINEのグループもあるので幹事までご連絡していただければ登録させていただきます。



# 東雲出張版

※「東雲」は文芸部の部誌のタイトルです。



何故か学校一の美少女が  
休み時間の度に、ぼっち  
の俺に話しかけてくるんだが？  
著者／出井 愛

よくある長文タイトルと、アニメ調のヒロインが描かれた表紙。ごくごく普通の学園ラブコメを装った本作の正体は、日本の小説の常識を覆しかねない驚くべき作品でした。

小説というものは一般に台詞と地の文で構成されていますが、本作は文庫本の全ページを通じて「台詞」と（心理描写）だけで構成されています。地の文を完全に排除した奇妙奇天烈な構成にも関わらず、物語は一つの恋愛小説として十分に成立しています。

「地の文無しで会話だけ」という斬新な創作技法に振り回されることなく、魅力的な登場人物たちが織り成す等身大の恋愛模様を丁寧に描く作者の技量には目を見張るものがあり、新人作家の作品でありながら現在5巻まで続いている事実はその評価を裏付けています。

本作は中高生向けの小説だからと敬遠するのはもったいない名作であり、新たな創作の形を切り開いていく人々に、私は今後も熱い声援を送ります。

医学部4回生 文芸部 黒川四郎

## 仁泉ひろば

jinsen-park

## 幻の東京オリンピック

文責／西村 保（学4期）

日本で初めて IOC 委員になったのは嘉納治五郎であった。就任は第4回ロンドン大会の翌年、1909年(大正9年)で、未だ日本がオリンピックに参加していない頃であった。

云うまでもなく嘉納治五郎は講道館柔道の創始者であり、教育者であり、当時は、東京高等師範学校(現一橋大学)校長として国際的にも有名であり、何よりも英独仏語に堪能であったからである。

大正期の日本人はオリンピックには殆ど関心を持っていなかったが1928年(昭和3年)の第9回アムステルダム大会で織田幹雄が初めて三段跳びで金メダルを獲得してからは一気にオリンピック熱が燃え広がった。そして1932年(昭和7年)のロスアンゼルス大会、次いで1936年(昭和11年)のベルリンオリンピックで日本選手は大活躍して更にオリンピック熱が高まった。

この風潮を背景にして東京にオリンピックを招致しようと考えたのは当時の東京市長(現都知事)であった永田秀次郎であった。特に昭和15年は皇紀2600年でもあり、この年にオリンピックを開催するのは誠に有意義と考えたのである。そして種々な関係方面に働きかけ遂に1940年(昭和15年)に東京オリンピック開催が承認されたのである。この喜びは全国に伝わり、特に東京は歓迎ムードに湧いた。

しかし、その頃から日中戦争の暗雲が立ちこめ、開催どころではなくなり、「オリンピックを返上せよ」との声が高まり、遂にオリンピックの開催を断念することになった。

このようにして昭和15年に予定された東京オリンピックは幻のオリンピックになったのである。そして次の東京オリンピックが開催されたのはそれから24年後の昭和39年であった。

## 仁泉ひろば

jinsen-park

大阪医科大学星光会  
第2回懇親会 2020/1/29  
高槻市 料理道楽 築漸にて

文責／乾 崇樹（学50期）

去る2020年1月29日、母校近くの割烹・小料理店の築漸にて大阪医科大学星光会の懇親会を行いました。大阪医科大学には、これまで150名以上が大阪星光学院から進学しております。これは医学部では大阪大学、大阪市立大学、奈良県立医科大学に次いで4番目に多い進学数ですが、これまで本学にのみ星光会がございました。2018年に微生物学教室教授の中野隆史先生に中心となっていただき、大阪医科大学星光会を発足し、今回2回目の集まりとなりました。

当日は集まったのは8名で、教授から研修医まで、職場も大学、他病院、クリニックなど少人数ながら多岐にわたるメンバーとなりました。美味しい料理と飲み物を楽しみつつ、お互いの近況や今後の展望、そして懐かしい大阪星光学院時代からそれに向けた受験の話まで、話題の尽きない楽しい会となりました。かなりの学年差にも関わらず星光学院での多くの話題を皆が隔たりを感じることなく楽しめたのは興味深いことでした。

少し話は大きくなりますが、2013年に「大阪星光学院医師の会」という会が発足しております。これは進学した大学によらず、大阪星光学院卒業生が、それぞれの職場などで互いに母校を同じくする者として交流できるようにと発足したものです。具体的には、何年も同じ職場で勤務しておりながら、同じ星光生であったことをずっと知らなかったという事例があり、せっかくの関係を活かさない手はない、お互いに良き仲間、気軽な相談相手になれるよう、交流のきっかけにという意図で立ち上げられています。2016年の時点で大阪星光学院から医

学部に進学した卒業生は1800人を数え、現段階で医師の会会員は約600人程です。2020年3月の会は残念ながらコロナウイルス感染拡大のために延期となりましたが、定期的に交流会が催されております。近畿の11の医学部に世話人を置き、本学の世話人は耳鼻咽喉科教室員であった林伊吹先生(現在は開業)が発足時に担当され、現在は耳鼻咽喉科・頭頸部外科の乾が引き継いでおります。

2004年度から新臨床研修医制度が始まり、現在医学生はマッチングにより研修先を決めます。このため母校以外で働く卒業生が増え、同時に他学から研修医、レジデントとして本学に来られる先生も多くなっています。当然、知り合いが少ない、時には全くいない職場に飛び込むこととなります。そういったとき、例えば卒業した大学、高校、中学が一緒というのは人間関係が始まる大きなきっかけとなります。星光医師の会は、そういった点でのバックアップのきっかけになります。後輩から相談されて邪険に扱う先輩はいないでしょう。同時に研修先、出向先など進路の相談に乗ることも今後の課題として取り組みが始まっています。大阪医科大学星光会も、そのような「知り合い、さらには困ったときに泣きつく相手を増やす機会」として、風通しの良い人間関係を作るきっかけに

なってほしいと考えております。医療の場では、一人一人の医師の裁量により成り立っていた医療から、医師、メディカルスタッフ、患者と、多くの人間が関わるチームで行う時代になってきました。医師一人では何もできず、また他科との連携もより重要性が増してきています。

こういった観点からは、今後は是非学生諸君にも参加して貰うことこそが、会の存続意義であると言えます。連絡が取りやすいようにメーリングリストも立ち上げましたが、まだ草の根活動、面と向かっての声掛けで動いております。会の趣旨に賛同頂ける星光OBの方には、是非とも事務担当をしております乾(oto064@osaka-med.ac.jp)までご一報を賜りたく存じます。堅苦しい活動は考えておりません。

参加者：中野隆史(微生物学、学38期)

島川修一(小児科、学44期)

勝村浩三(眼科、学46期)

乾 崇樹(耳鼻咽喉科・頭頸部外科、学50期)

小嶋融一(消化器内科、学54期)

吉田修平(呼吸器内科、学55期)

吉川信彦(放射線科、学56期)

武市直大(耳鼻咽喉科・頭頸部外科、研修医(他学卒業))



# 冊子 抜

一頁随想

## わが旅 725

協賛/株式会社 ツムラ



### 米国の思い出

名古屋大学大学院医学系研究科  
地域在宅医療学・老年科学教授

葛谷 雅文

小学校五年の時、父の仕事の関係で一年間米国のフィラデルフィアに住んだことがある。父は一人では何もできない人であったため、一年間の米国滞在に母と子供二人を連れて行ったわけである。フィラデルフィアに着いた時点では住む場所も決まっておらず、家族四人しばらくホテル住まいをした記憶がある。アパートが決まり、周囲の環境があまりよろしくないため、近くの教会が運営している小学校に入れられたわけであるが、五年生であるはずが私は四年生、弟は確か日本と同じ二年生に入ったと記憶している。なぜ、私の学年を一つ落として入学させたのかは定かではない。もちろん、当時の日本の小学校で英語を習うはずもなく、まったく授業内容はチンプンカンプンであった。初老の担任はわざわざ私のために授業終了後、毎日英語の勉強をしてくれた記憶がある。

ただ、算数の授業だけは英語がわからなくても理解ができ、この英語がまったく喋れない日本人は算数の天才と言われ、抜群に優秀であった(一年学年を落としたりした影響もあるが、当時の日本の算数の教育が米国に比べ進んでいたのだろう)。

その当時のわが家庭の経済状態はわからないが、少なくとも米国では貧乏だったのだろう。アパートも狭くベッドルームも一つしかなく、四人で二つの中古のダブルベッドに寝ていた記憶がある。当時、まだ固定相場制でドル360円の時代であり、現在ほど日本人が海外に向いた時期ではない。日本人は大変珍しい存在であった。そのためわざわざ同級生が私を家に招待してくれたり、色々な催し物に私を珍しい日本人として紹介してくれたりもした。

一年間の米国生活では、十分な英語も身につかず、そうかといつて教育

不熱心な両親は私たち兄弟に日本の教育を熱心に勉強させたわけでもなく、帰国して六年生になり、勉強に追いつけなく大変苦労した覚えがある。今では、私なりに苦労したあの一年間は、なつかしいメランコリックな、セピア色の思い出である。

その後、私は三十四歳の時に、フィラデルフィアに近いボルチモアに留学した。滞在中はほぼ二十五年ぶりにフィラデルフィアを訪れたが、私が住んでいたボロアパートは、さらにボロさは増していたがまだ存在し住人もいた。近くで遊んだ公園(確かChick Parkと言った)も、小学校もそのまま残っていた。

私も父と同様に妻と二人の子供(当時五歳と三歳)を連れて行った。はじめ妻は行くのをためらっていたが、二年半の滞在で米国生活をそれなりに楽しんでくれていたと思う。子供たちは幼稚園、学校で多くの友達が出てきて楽しく生活してくれていたと思う。ただ、これも私の視点であり、実際子供たちがこの二年半の海外生活を当時どのように感じてくれたのか、また小学生高学年であった私の場合と違いまだ小さかった子供たちが、当時の米国での生活をどれほど覚えていたかは聞いたことが無い。一度聞いてみなければいけない。

★★★2020年4月1日発行の日本医師会雑誌第149巻・第1号に葛谷雅文先生(学32期)の記事が連載されました。★★★

# こむら返りは、なぜ起るの?

「こむら返り」とは、ふくらはぎの筋肉である腓腹筋がつる、けいれんを起こしている状態のことをいいます。かつて、ふくらはぎを「腓(こむら)」と呼んでいた名残り、このような名がつきました。地方によっては「こぶら返り」とも呼ばれています。また、足の裏や太もも、手指の筋肉などで起こることもあります。このこむら返りは、筋肉の伸び縮みのバランスが何らかの原因で崩れ、筋肉が収縮したままになることで起きる現象です。痛みをとめない、ひどい場合は筋肉の不全断裂(肉離れ)を起こすこともあります。ありふれた現象なのですが、詳しい原因については、よく分か

っていないのが実情です。激しい運動の後で筋肉が極度に疲れていたり、水泳で冷えて血行が悪くなったり、脱水などで電解質のバランスが悪くなると、こむら返りが起きやすくなります。また、妊娠中の下肢血行障害や体重増加による筋肉疲労も、こむら返りを引き起こす一因になります。高齢者にも多く、数人に1人は夜間や夜明け前に生じるといわれています。さらに、糖尿病や肝硬変、腎不全、透析、甲状腺機能低下症といった病気が原因で、こむら返りが起こることもあります。腰部脊柱管狭窄症や腰椎椎間板ヘルニアによる坐骨神経痛があるときも、こむら返りが生じます。他にも、利尿剤などの薬剤を服用したときに、血液や体液の電解質バランスが悪くなると生じることもあります。

第17話 / 2019年12月5日号

★★★週刊実話「痛みの悩みの相談室」に井尻慎一郎先生(学31期)の記事が連載されています。★★★

## 学部25期(昭和51年卒)同窓会のご案内

母校卒業後44年が経ち、「古稀」(人生七十、古来稀なり)を迎えようとしています。開催時には新型コロナウイルスが終息していることを願って、多数の方々のご参集を期待します。尚、本年度医師国家試験合格を全国一に導かれた大槻勝紀学長をお招きし、学内外の近況をお伝え頂く予定です。

記

日時: 2020年8月29日(土) 午後6時より

場所: 京料理「ちもと」(075-351-1846)

京都市下京区西石垣通四条下ル(四条大橋すぐ近く)

幹事(京都地区): 浅野明美、浅田修二、石原正(連絡係)

志熊道夫/利枝子、多田秀樹、立岡良久

野田春夫、横山晴一



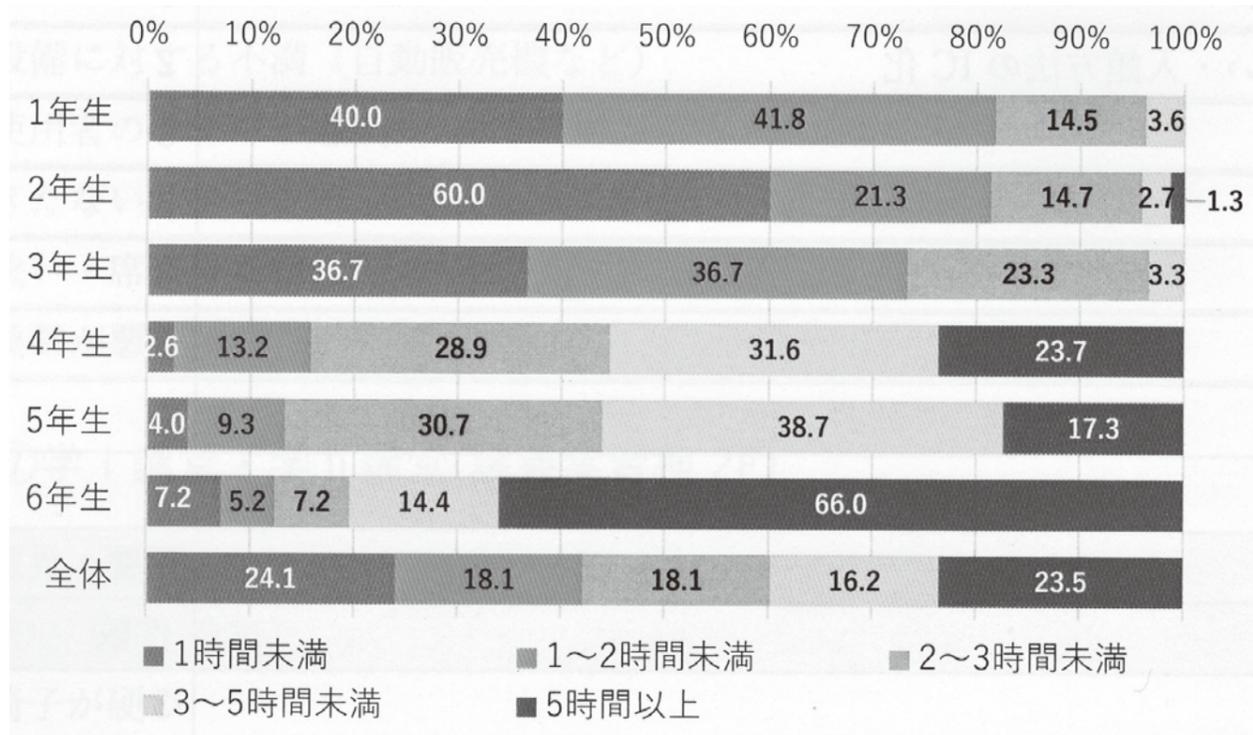
# データで見る 大阪医大の イマドキの医学生事情

母校 IR 室研究の一環として発表されました「学生研究2」より一部テーマを抜粋しご紹介させていただきます。



## 学ぶ

### 授業外学習時間（予習・復習時間）



本学学生の1日の予習・復習の時間について学年ごとに割合を見ると、1年生では「1~2時間未満」の41.8%、2年生では「1時間未満」の60.0%、3年生では「1時間未満」と「1~2時間未満」がともに36.7%、4年生では「3~5時間未満」の31.6%、5年生では「3~5時間未満」の38.7%、6年生では「5時間以上」の66.0%であった。全体では「1時間未満」の学生の占める割合が最も多く、24.1%であった。

一方、総合大学である大阪大学（2018年度）の学生の予習・復習時間をみると、勉強時間で最も割合が高かったのは理系全体で「1~2時間」の

29.3%、次いで「1時間未満」の28.3%である。学部による違いをみると、「0時間・1時間未満」の割合は文系の方が理系に比べて高い。また4年生の「0時間」の割合が文理共に最も高いことがわかる。

本学と大阪大学の調査結果を比較すると、本学では6年生の授業外学習の時間が最も長いのにに対して、大阪大学では4年生以上が最も短い。これらは大阪大学の多く学部では4年生の授業時間が少ないことが理由として考える。本学6年生は授業時間に比べて実習時間が多く、授業の予復習に限って言えば、総合大学と変わらないのかもしれないが、医師

国家試験対策として学生自身で勉強する時間は長いこと、そのことが結果に反映していると考えられる。

医学部生の勉強時間が一般大学の他学部の学生と比べて長いのか。日本学生支援機構による全国の大学生を対象とした「学生生活調査」(2018年度)によると、大学での授業の予習・復習に関しては、1週間で「1~5時間」勉強する学生の割合が最も高く51.9%、次いで「0時間」の割合が高く20.8%であった。これは1週間あたりの学習時間のため、7日間の平均をとると1日あたりの勉強時間が「1時間未満」の学生の割合が72.7%を占めるといえる。これと比較するならば、本学の学生全体で「1時間以上」勉強する学生の割合が7割5分を占めることから、勉強時間は他学部の学生よりも多いと考えられる。それでは同じ医学部で比較するとどうか。関西医科大学の「学生生活白書」(2018年度)の調査結果と比較すると、関西医科大学の1~4年生では「ほとんどしていない」学生の割合が高く、約40%~70%となっている。「30分程度」とする学生の割合

も20~30%になる。また4年生に関して、予習・復習を3時間以上している学生の割合はそれぞれ5.2%、9.5%であり、本学の4年生で予習・復習を3時間以上している学生の割合は55.3%である。

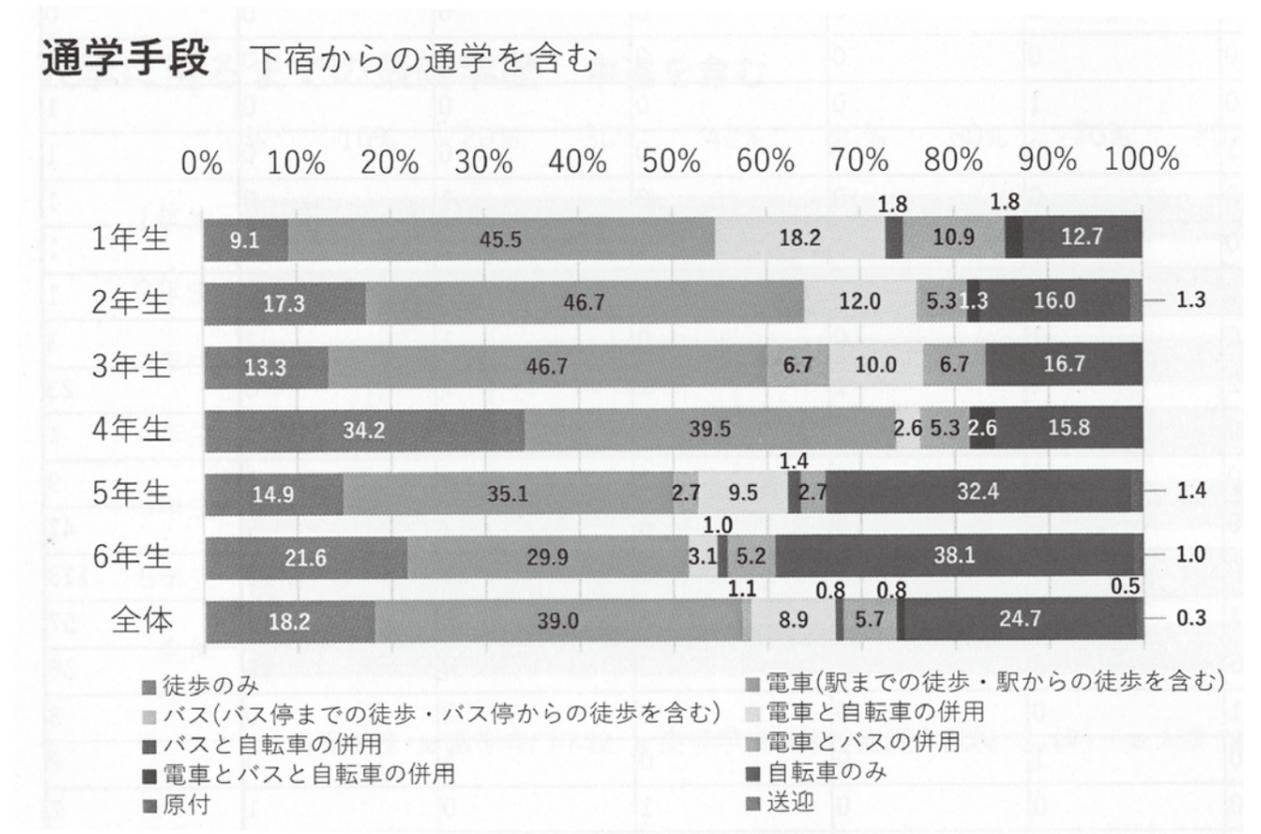
これらのことから、授業外学習をしない学生の割合は本学よりも関西医科大学で高く、大阪医科大学の学生の時間外学習の時間の方が長いと言えそうだ。

しかし、医学部の学生の特徴として授業外学習時間が「試験期間かどうかによって変わる」という点がある。具体的には「試験期間だと1日12時間以上、試験期間外だと0時間」という場合があり、これは「授業外学習」を純粋な「授業のための予習復習」と捉えるか、「試験勉強も含む学習」と捉えるかによって、回答結果が異なるということの意味している。したがって、本学と関西医科大学とでどちらの学生がよく勉強しているのか、今回の比較のみで一概に結論を述べることは難しい。

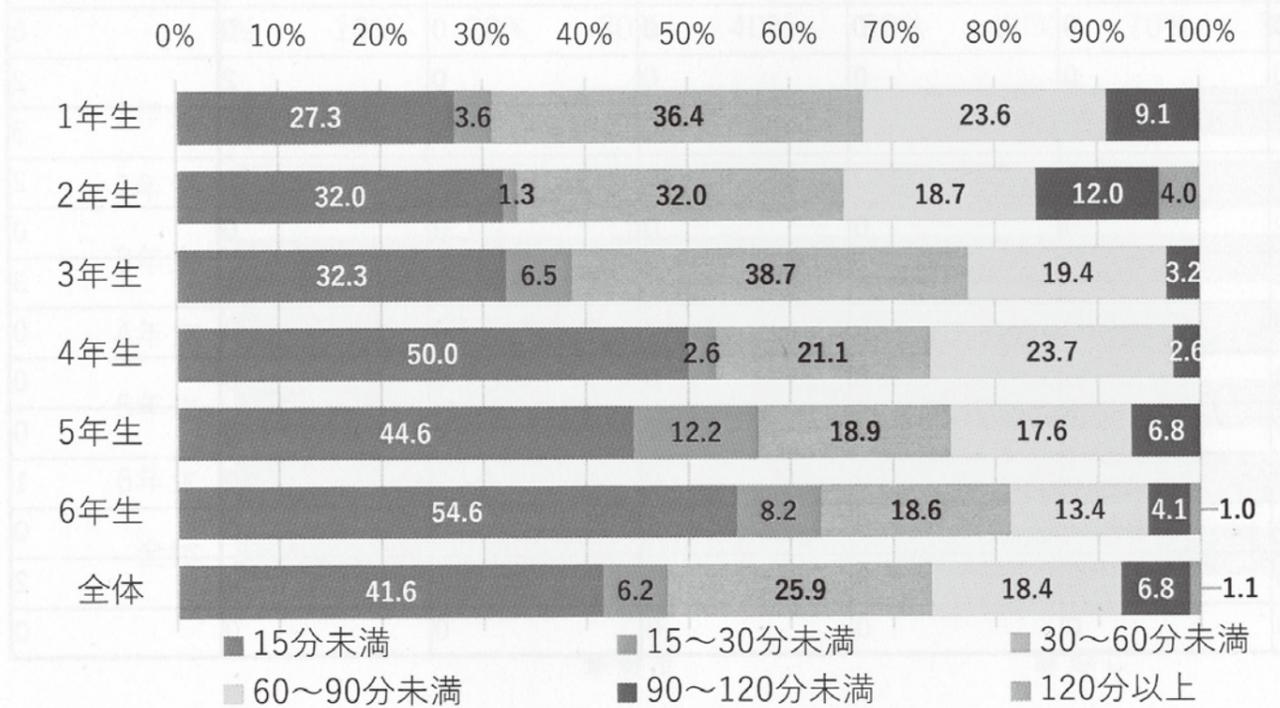
分析：佐野

## 通う

### 通学事情と下宿率



### 通学時間 下宿からの通学を含む



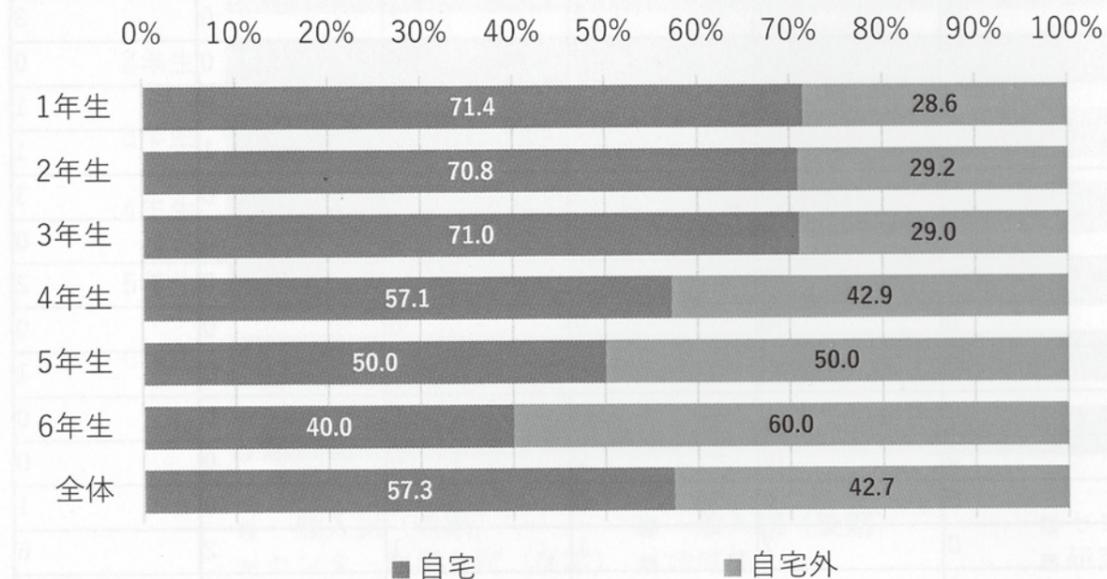
徒歩や自転車などの通学の割合が1年生は低く、4年生から高くなる傾向がある。また、登校時間が「15分未満」、「30分未満」は学年が上がるごとに高くなる傾向にあり、これは関西医科大学でも同様の傾向がみられる。これらは現在の住居における自宅外での比率にも同様の傾向が見られ、医学部では上級生になるにつれ、実習など学業の負担が大きくなるからだと思われる。

なお、平成28年度日本学生支援機構学生調査の片道通学時間では、アパート等からの通学が「0~10分」の46.3%であり、大阪医科大学の全体の「15分未満」41.6%に近い値である。

また、「徒歩のみ」「自転車のみ」以外では電車を利用しない学生が非常に少なく、本学が駅に近く、電車でのアクセスが便利であることを示していると思われる。

分析：岩井

### 現在の住居



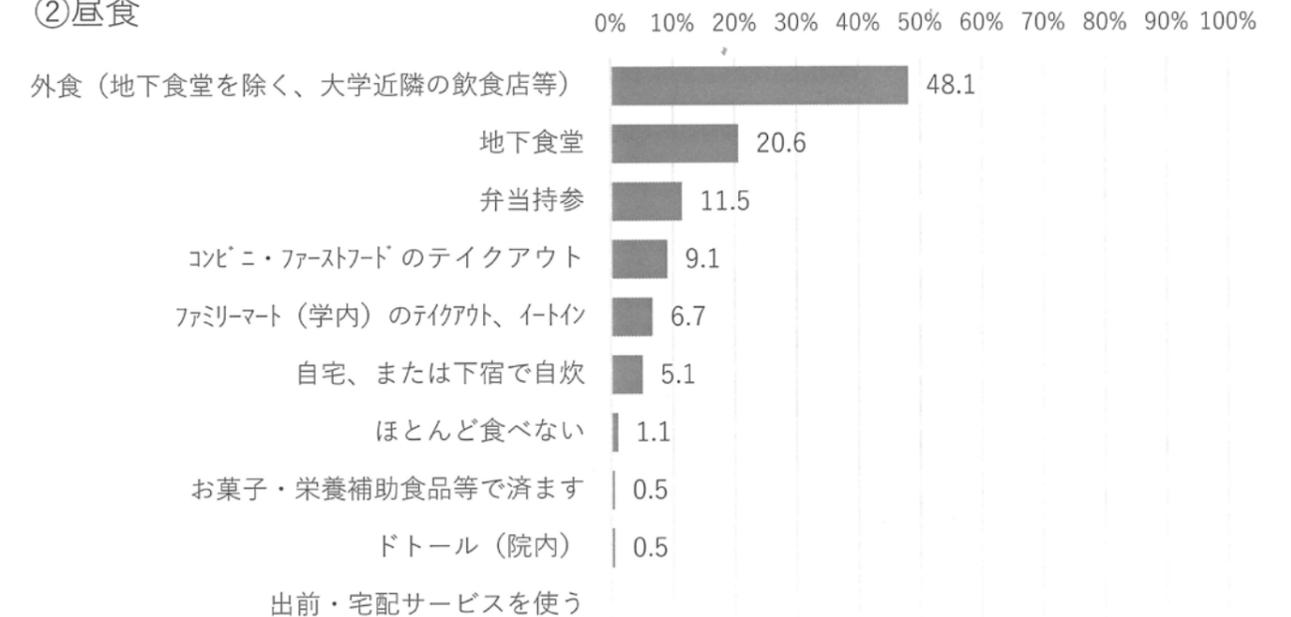
現代では「職住分離」が普通のことですが、大医生の半数、とくに上級生ほど、「職住同一」に近い生活であることが、通学時間から見て取れます。これが大医の特徴なのか、それとも医学部に特徴的な

かは、他大学・他学部の情報や、家賃など地域の情報や経済事情に関する情報などから総合的に判断する必要があります。

## 食べる

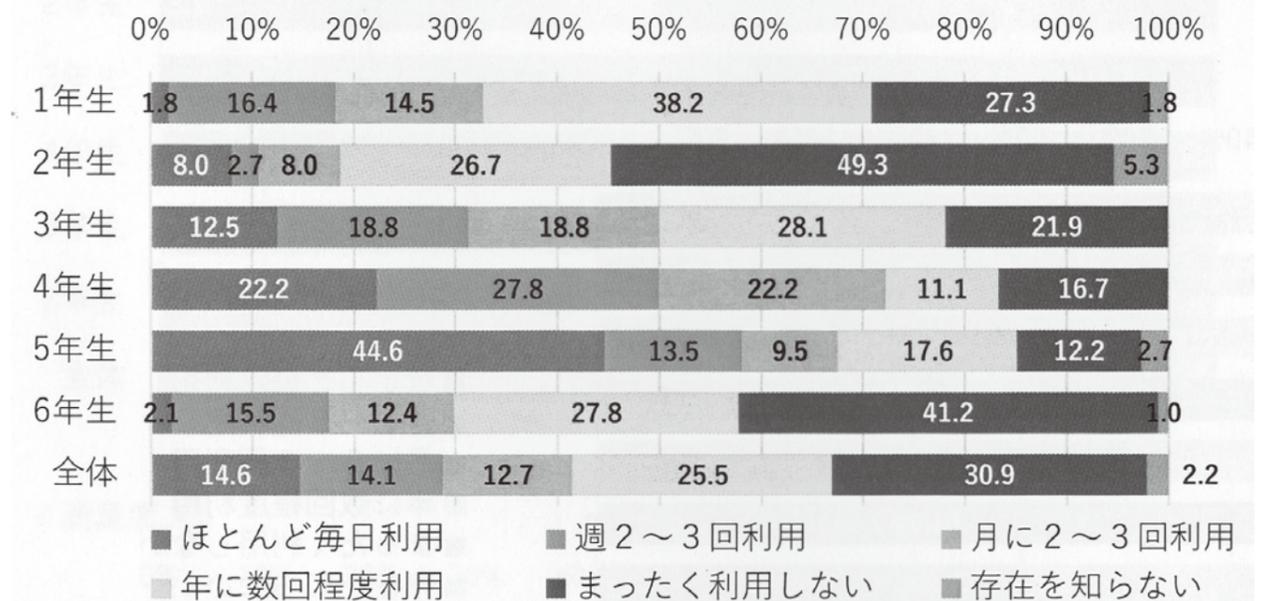
### 昼食事情

#### ②昼食



### 地下食堂

#### <利用頻度>



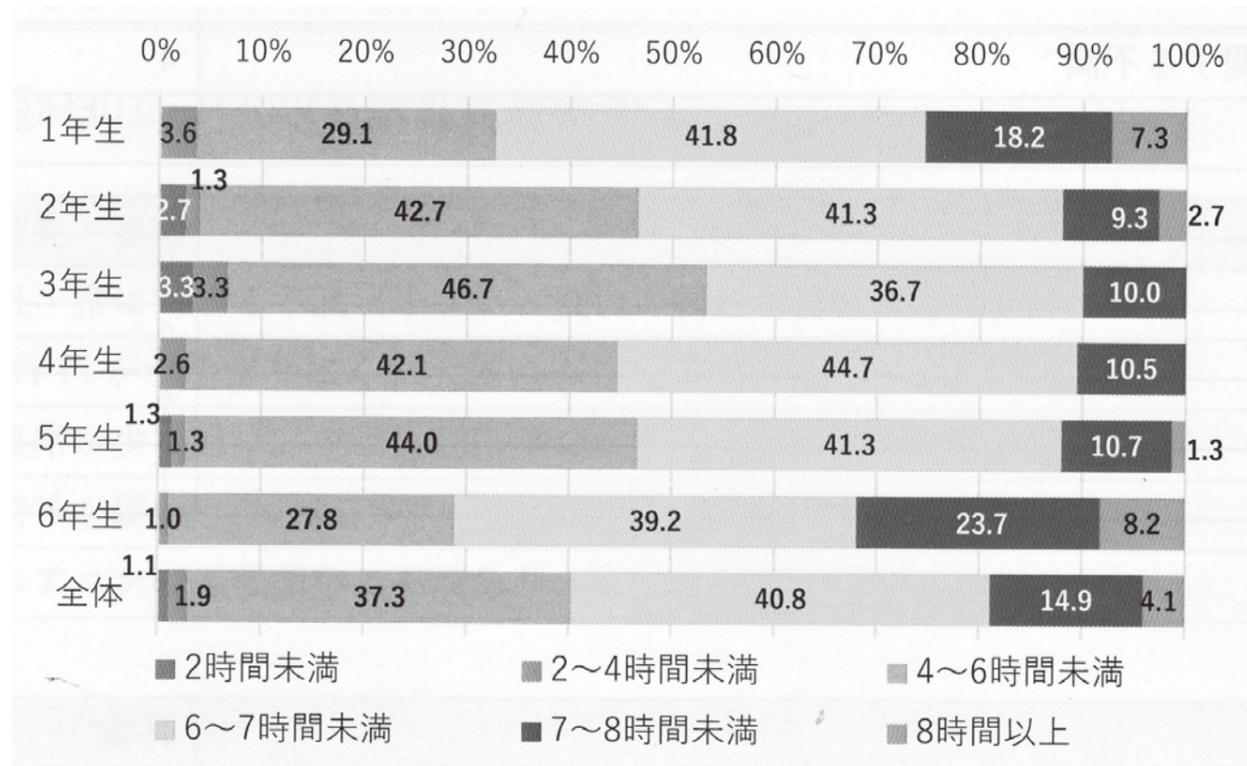
本学は周辺に飲食店が多いこともあり、授業のある平日の昼食は48.1%の医学部生が「外食（地下食堂を除く、大学近隣の飲食店等）」をしている。一方、学内の「地下食堂」を利用する学生は20.6%である。

地下食堂の利用頻度をみると、「ほとんど毎日利用」する学生は全体の14.6%であり、学年が上がる

ほどに増加しているように見えるが、これは昨年度の調査と比べると、毎年の傾向ではなく、その年度の学年のカラーによるものと思われる。ただし利用の割合が高い5年生については昨年と同じ傾向であり、これは5年生では実習が多いからだと思われる。  
分析：岩井

### 寝る

#### 睡眠事情



睡眠時間について、本学医学部生全体で割合が最も高かったのは40.8%の「6~7時間未満」であった。また1、4、6年生では「2時間未満」の学生がおらず、3、4年生では「8時間以上」の学生がいないように、睡眠時間が極端に短かったり、長かったりする学生の割合はかなり低い。それゆえ、全体としては健康的な睡眠をとっていると言える。なお、全体で「8時間以上」の割合が高いのは6年生で8.2%であった。総合大学の香川大学（平成29年度）の睡眠時間に関する調査結果をみると、学生全体の中で最も割合が高いのは「6時間」の44.0%であるが、「7時間以上」と回答した学生の割合は22.7%と、比較すると本学の方が高いことがわかる。

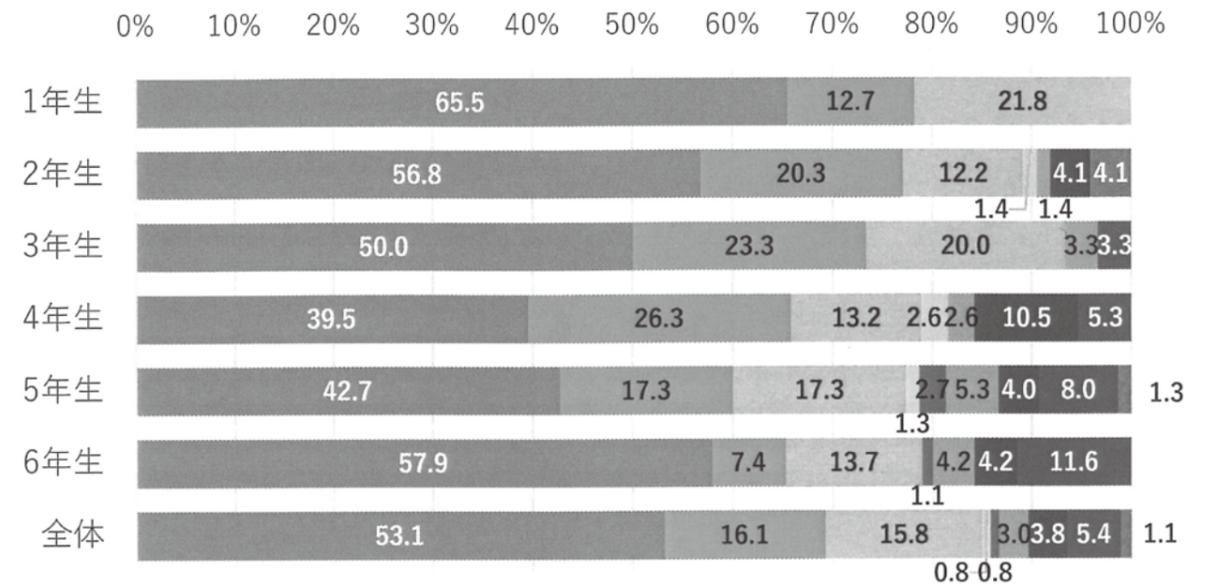
分析：佐野



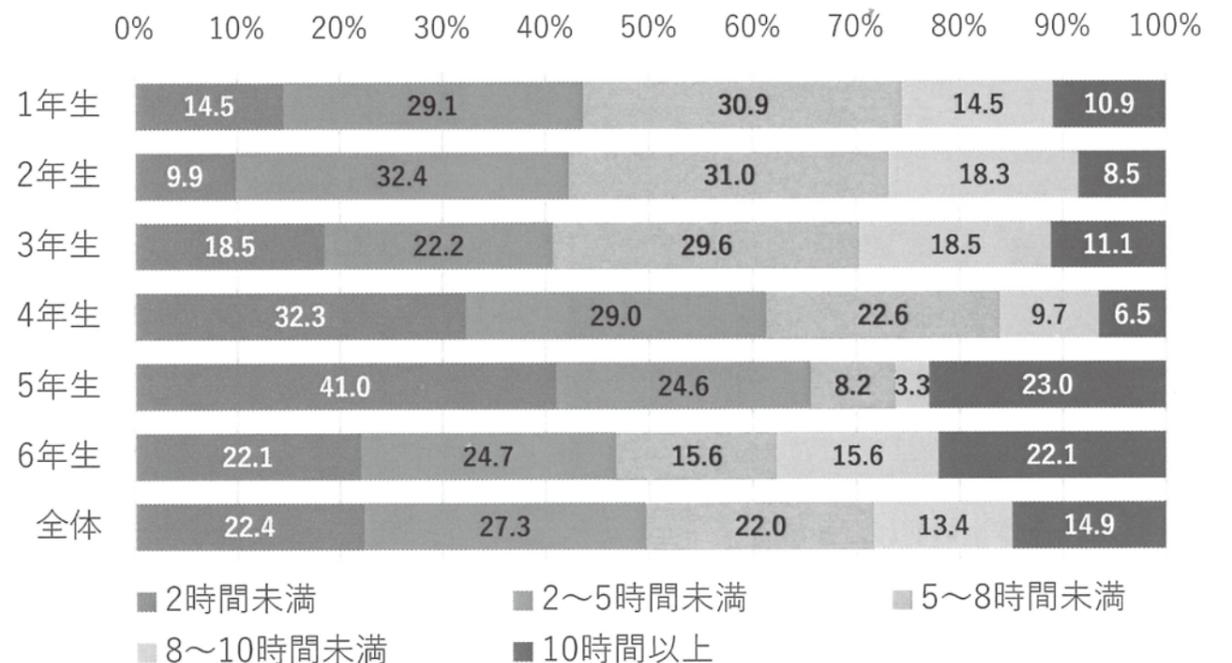
### 励む

#### クラブ・サークル活動事情

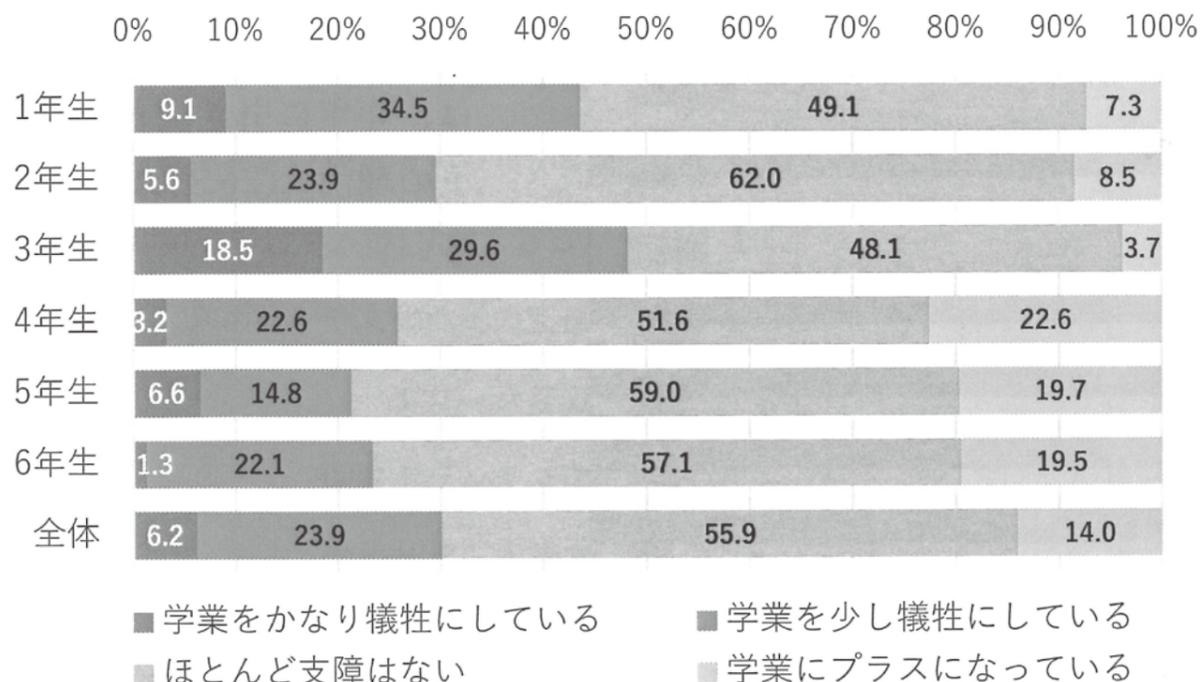
##### ①クラブ・サークルの加入状況について



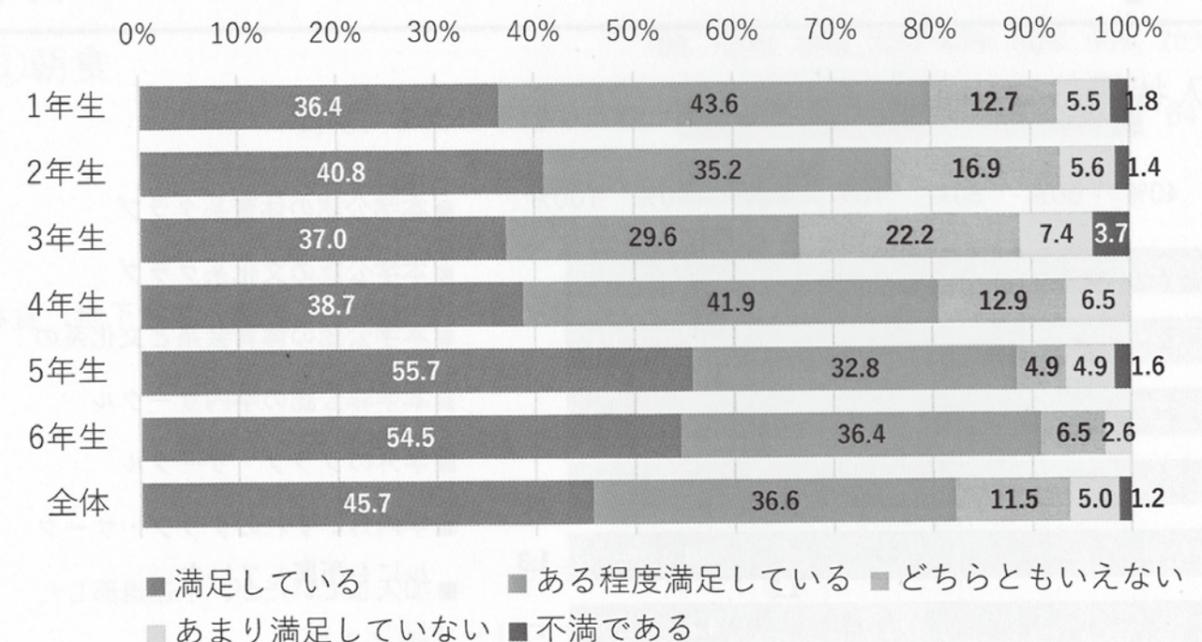
##### ②1週間当たりの活動時間



### ③学業への影響度



### ④活動の満足度



本学のクラブ・サークルの加入状況について、「本学公認のクラブ」に所属している学生は全体で85.0%である。一方、「学内外いずれのクラブ・サークルにも所属していない」割合は全体で3.0%である。本学では非公認のクラブ・サークルが少ないことから、医学部生の多くは公認の体育系または文化系（あるいは両方）に所属していることがみてとれる。

1週間当たりの活動時間は全体では、昨年に引き続き、「8時間未満」と答えた学生が7割を超えており（71.7%）、また、約半数は「5時間未満」（49.7%）と答えていることから、活動時間は一般にイメージされる体育会のように長くない。

活動の満足度をみると、全体では「満足している」もしくは「ある程度満足している」と答えている学生が82.3%である。学年別にみると、昨年に続いて、部活の幹部学年である3年生ではその割合はやや低い（66.6%）。

学業への影響については、全体では29.1%の学生が「少なからず学業を犠牲にしている」と答えており、学年別にみると、部活の幹部学年である3年生では「少なからず学業を犠牲にしている」が約半数（48.1%）を占める。4年生以上の上級生になるとその割合は低くなり、「学業にプラスになっている」と答える学生の割合が高くなる。

分析：岩井

### アンケート結果について

文責／大阪医科大学 IR 室特務講師 柝澤健史

このたび、医学部「学生研究2」でIR（Institutional Research）室配属の学生が「学勢調査」の医学部生の回答データの分析に取り組み、その結果をパンフレットにまとめました。学勢調査は2016年度から医学・看護学学生生活支援センターが学生支援を目的として毎年行っている調査です。IR室は大学教育の内部質保証に関わる学生の学習実態や学習成果を分析する部門として設立され、2018年度より主に教学データの調査・分析の活動を行っていますが、業務一部として学勢調査の集計と分析も担当しています。今回、IR室の「学生研究2」では、学勢調査の結果が回答した学生に還元され、フィードバックとなるように、学生自身に分析から公表ま

でのプロセスを実践してもらうことにしました。これはEBM（evidence-based medicine）を実践できることを目的とし、授業を通じて学生はリサーチマインドを醸成し、問題発見・解決の姿勢を身につけるという科目の目的に最適な取り組みと思われました。

ここで紹介されているのはパンフレットの抜粋になります。パンフレットの執筆は3年生、岩井啓晃、佐野詠里子、服部風羽子の3名が行い、担当教員の柝澤健史が編集を行いました。学生向けのパンフレットにおいて分析ならびに公表すべき項目はすべて学生が考えて選定したものです。それらは「通学時間と居住」、「図書館と自習室の利用」、「授業外学習時間」、「食事と睡眠」、「部活動」、「アルバイト」、「奨学金」、「学生生活全般の満足度」で、この選定にもいまの学生の関心が表れていると思います。分析は他大学で公表されている学生生活調査等のデータとの比較を中心に進められました。その結果、本学では、他大学より授業外学習時間が長いこと、睡眠時間を十分とっていること、一カ月のアルバイト収入が大学生の全国平均と同じであること、他の医科大学より学生生活の満足度が高いことなどの示唆が得られました。今後、4年生「学生研究3」でこれらの結果をさらに掘り下げて分析していく予定です。

こうしたパンフレットの配布によって、多くの学生が本学の姿をデータによって確認し、学生同士が話し合うことで自分の大学の文化を引き継ぎ、作っていくという意識が高まるきっかけになればと考えています。また、この記事が、先生方にとって母校の後輩たちがいまどのように学んでいるのかをお知りになる機会になれば幸いです。



# まんが41

ミルクボン太 (学31期)

ミルクボーイ・ピンセット



# 本部だより

## 会員訃報

次の会員が亡くなりました。慎んでご冥福をお祈り致します。

事務局編集係

**高医7期 飯田耕一先生**  
 令和2年1月28日誤嚥性肺炎の為ご逝去 (106歳)。昭和13年卒。  
 卒業後、大阪市都島区にて開業されましたが、軍医として応召、ラバウルにて終戦を迎えられました。昭和25年より大阪の十三にて眼科をご開業になり、54年間のながきに亘り地域医療に貢献されました。  
 ご遺族 長男 紀彦様 (学20)

**高医14期 河野省吾先生**  
 令和2年1月25日老衰の為ご逝去 (97歳)。昭和19年卒。  
 愛媛県宇和島市にて外科・整形外科をご開業になりました。昭和55年3月より平成6年2月まで宇和島市医師会長、同年2月より平成10年2月まで愛媛県医師会副会長として地域医療に尽力されました。昭和62年2月に愛媛県知事表彰、昭和63年10月に厚生大臣表彰、平成6年11月に勲五等旭日双光章、平成11年12月に南海放送賞と数々の受章受賞をされておられます。  
 ご遺族 長男 洋平様

**学部4期 金森清信先生**  
 令和2年2月1日老衰の為ご逝去 (90歳)。昭和30年卒。  
 卒業後、一宮市民病院でのご勤務を経て、一宮市にて内科・小児科をご開業になりました。「80歳で閉院するまで地域医療に尽力した見事であつた人生でした。」とのご遺族様のお言葉です。  
 ご遺族 長男 信一様

**学部4期 平井博先生**  
 令和2年2月12日誤嚥性肺炎の為ご逝去

(90歳)。昭和30年卒。  
 卒業後、母校産婦人科に入局され、講師、助教授をお務めになりました。ご退職後は京都市桃山にてご開業になり、日本産婦人科医学会名誉会員、日本産婦人科学会功労会員、近畿産婦人科学会名誉会員、京都産婦人科医科顧問として地域医療に貢献されました。  
 ご遺族 妻 淳子様

**学部11期 岡山隆至先生**  
 令和2年1月3日前立腺がん・白血病の為ご逝去 (86歳)。昭和37年卒。  
 大阪南通信病院、豊中市民病院産婦人科でのご勤務の後、昭和50年に枚方市にてご開業になり、80歳で閉院されるまで地域医療の為に尽くされました。  
 ご遺族 妻 絃子様

**学部13期 児玉和典先生**  
 令和2年3月18日肺炎の為ご逝去 (81歳)。昭和39年卒。  
 卒業後、母校消化器外科に入局されました。同脳神経外科でのご勤務を経て、昭和56年より宝塚市の旧児玉病院にて、平成13年よりそれいゆ会こだま病院にて院長をお務めになられ、平成18年のご退職まで地域医療に貢献されました。  
 ご遺族 妻 多恵子様

**学部16期 黒田悦弘先生**  
 令和元年5月24日急性心不全の為ご逝去 (78歳)。昭和42年卒。  
 卒業後、母校神経精神科にご入局になり、昭和51年には医学博士を取得され、昭和54年～55年講師として勤務されました。平成元年より高石市浜寺病院での精神科医・副院長を経て、平成6年から15年まで同病院院長をお務めになりました。その後も千里みおつくしの杜診療所精神科所長をされるなど地域医療に尽力されました。60歳で藍綬褒章を受章されておられます。  
 ご遺族 妻 滋子様

**学部18期 可兒弘美先生**  
 令和2年2月19日パーキンソン病・肝硬変の為ご逝去 (79歳)。昭和44年卒。

卒業後、大阪警察病院にて勤務されました。昭和47年4月に藤井寺市にて可児医院（内科・小児科）をご開業になり地域医療の為に尽くしておられました。

ご遺族 長男 弘行様（学45）

#### 学部18期 嘉村智美先生

令和2年2月3日呼吸不全の為に逝去（79歳）。昭和44年卒。

昭和46年から佐賀県立病院、隠岐病院小児科での勤務を経て、昭和53年に隠岐の島で「嘉村小児科・内科医院」を開業されました。平成16年に閉院された後も、平成18年から令和元年まで岡山市「康愛クリニック」にてお勤めになられ、地域医療に貢献されました。

ご遺族 妻 孝子様

#### 学部36期 江頭由太郎先生

平成31年3月29日急性心不全の為に逝去（58歳）。昭和62年卒。

母校病理学教室にて准教授として勤務され、後輩の育成にも尽力されておられました。

ご遺族 妻 宏子様



## 令和2年度大阪医科大学女性医師の会 第33回各科医療勉強会 開催中止のお知らせ

新緑の候 同窓の女性会員の先生方にはお変わりございませんでしょうか。

さて、6月13日開催予定の第33回各科医療勉強会は新型コロナウイルス感染症の拡大により、会合自粛が社会的に求められている現状を鑑み、開催を中止とさせていただきますこととなりました。

誠に残念ではございますが、事情ご賢察の上ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

尚、お送りさせて頂いております出欠返信表につきましては、今後の名簿資料といたしますので、氏名、メールアドレスのご記入をいただきご返信をいただけますと幸いです。

### 令和3年度大阪医科大学女性医師の会 開催予告

令和3年6月12日（土）ホテルグランヴィア大阪にて開催

来年皆様にお会いできることを楽しみにしております。

### 編集後記

本号に、IR（Institutional Research）室の学生諸君が行った「学勢調査」の結果が掲載されています。勉強時間や、睡眠時間など多岐にわたるアンケート結果が示されています。その結果、母校学生諸君の学生生活満足度が高いと分析されています。しかし、授業以外の勉強時間は長く、アルバイトをしている学生も、高学年になると少なくなっています。医学部以外の学生は、高学年になると、就活などを行わなければなりません、医学生にはその心配がありませんので、実習や国家試験対策に時間が費やされていることが見て取れます。

このような学生生活を送っている後輩たちで

すが、実はかなりの金額がかかっています。サラリーマンの平均年収と同額程度の学納金が必要です。学生諸君にはこの費用を負担してくれている保護者に感謝し、けして留年や国試浪人をなさらないようお願いしたいと思います。小筆は一留してしまいましたので、自分への反省を込めて。ちなみに、今春の母校医師国家試験合格率は新卒、既卒とも100%でした。（治）



ハードルをジャンプ!!

地元で 50年

薬袋・診察券・カルテなどの

# 医療印刷

タツミ印刷株式会社

お気軽にご相談下さい。

池田・高槻

tel: 072-761-8434